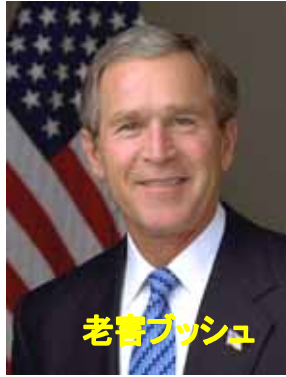


対北朝鮮テロ支援国家指定解除と日本の核武装

七年前、アメリカは同時多発テロの首謀者への報復として、アフガニスタンに侵攻した。ブッシュは「テロには屈服するな」と呼び掛け「旗幟を鮮明にせよ」と国際社会に迫った。しかし「世界の警察」であった筈の米国は、ならず者国家の脅しとごり押しに負けて、北朝鮮に対する「テロ支援国家指定解除」に踏み切った。これまでテロに対しては如何なる脅しにも決して屈してはならないと言い続けてきたブッシュは金正日に屈服しアメリカは「世界の警察」から「テロ支援国家」に成り果ててしまった。



老害となったブッシュ大統領

アメリカ政府は、テロ支援国家指定解除にあたり北朝鮮が核施設の検証に同意したと説明している。だが一方で、北朝鮮には核の「未申告施設」があり、ここにも北朝鮮の同意の下に立ち入ることができると言っている。アメリカ政府の説明で明らかになったことは、現在進行形で北朝鮮が

隠し続けている核施設がある事と、この施設が仮に判明しても、立ち入る為には北朝鮮の同意がいる事である。これを受け入れたアメリカ政府は検証できない核施設が北朝鮮にある事を容認したということである。よくもまあこんな条件でテロ国家指定を解除できたものだ。どうやらブッシュは貧すれば鈍したよう、最早老害と言わざるを得ない。誇りを持って孤高を貫け！

日本にとつて六者協議参加国の中で北朝鮮はもとより、支那、韓国、ロシアが当てにならないのは明白であり、多小の理解を示していた米国が日和つてしまったことから、我が国のマスコミは、日本が拉致に固執すれば、孤立に追いやられる事となるだろうと他国に同調するよう促しているが、その孤立を解消するのにどんな意味があるというのか、国家ぐるみのテロによって同胞が拉致監禁されて苦しんでいるのを見捨てるというのか、冗談ではない。北朝鮮に制裁を続けることによつて孤立するというのは甘んじて受けようではないか。いま日本が成すべきことは『誇りを持って孤高を貫き、国家としてのプリンシプルを持つこと』である。拉致被害者を捨て、他国に迎合するような事があれば、未代まで禍根を

残すこととなり、先人が築いてきた永光ある大日本帝国の歴史に汚点を残すこととなつてしまつたらう。北朝鮮の政権中枢がどうなっているのか分からない状況下で今まで通り未申告施設において核兵器の開発を続けることをアメリカは容認してしまつた。その核兵器は、米国には届かなくとも日本には届くことを承知のうえで認めただ。同盟国に核の脅威が及ぶ事態を見て見ない振りをして、同盟国の国民がテロの犠牲者になつている事態を無視したのが米国政府のこの度の措置である。仮に逆の立場なら「裏切り者のジャップ！」と口汚く罵り、日本製品の不買運動を始めたことだろう。核をもつて核を制せ！

アメリカの裏切りが鮮明になつた今、日本は日本自身の力で、如何にして拉致被害者を救出するのか、さらに核を如何に抑止するのかという課題に直面した。十月十日の米国による対北朝鮮テロ支援国家指定解除は、アメリカの正体を白日の下に晒すとともに、我が国に誇りある独立国家としての奮起を促すこととなつた。即ちアメリカ一極支配の終焉と、この度の措置によつて、我が国は独自の力で国家と国民を守りうる軍事力を持つて、真つ当な国家として再興することを求められているのである。

日本が真つ当な国家として再興するための指針は、ブッシュ政権で大統領補佐官を務めたことがあるデービッド・フラムの論文にある。フラムは日本の核武装について「米国は日本に対し核拡散防止条約(NPT)を脱退し、独自の核抑止力を築くことを奨励せよ。第二次世界大戦はもうずっと昔に終わったのだ。現在の民主主義の日本が、台頭する中国に対してなお罪の負担を抱えているとするバカげた見せかけはもうやめるときだ。核武装した日本は中国と北朝鮮が最も恐れる存在になる。日本の核武装は中国と北朝鮮の不当な行為に対する抑止力となるだろう」と述べている。もちろんフラムの主張は米国内では少数意見に過ぎないが、こうした論文が発表されることに意義がある。

日本が周囲を反日国家に取り囲まれている現状において、独自の力で領土と国民を守るためには、フラムの言うように核武装することが最も有効で、最も手っ取り早い手段である。

「核をもつて核を制す」このことが日本を真つ当な国家として再興するための最善の策である。

日教組は癌・中山前国交相渾身の一撃

「日教組はいかん。何とか日教組を解体しなきゃいかん」「日教組は解体する。小泉さん流に言えば、日教組をぶっ壊せだ」「日本の教育の癌は日教組だ。日教組をぶっ壊すため私は火の玉になる」最後まで自説を貫き、日教組に捨て身の一撃を与えた中山成彬前国交相の発言は称賛に値する。しかし、野党やマス



中山成彬前国交相

コミは、日教組の恥部を隠蔽して中山前大臣の正論を失言と断じ、中山降ろしに躍起となった。中山氏は暴風雨に向って孤軍奮闘したが大臣の椅子から引きずり下ろされてしまった。就任から僅か五日目の惨劇である。中山成彬前国交相の無念の胸中を思い、改めて日教組の本質を検証する。

北朝鮮を賛美する日教組

我が国の教育現場や教育行政に依然として大きな影響力を持つ日教組が「拉致の犯人」と友

好関係にあることは周知の事実である。日教組の元委員長榎枝元文は平成十四年二月に行われた金正日の六〇歳の祝賀会に向けて「私は訪朝して以降、世界



榎枝元文・元委員長

中で尊敬する人は誰ですかと聞かれると真つ先に金日成主席の名前をあげます。主席に直接お会いして朝鮮人民が心から敬愛し父と仰ぐに相応しい人であると確信したからでした」と北朝鮮に忠誠を誓うかの様な祝いの文章を送っている。因みに榎枝はミスター日教組とも言われ、永年の北朝鮮賛美が評価されて平成三年、北朝鮮より親善勲章第一級を授与されている。

また日教組の関係団体で、北朝鮮及び朝鮮労働党の公式政治思想である『チュチェ思想』に取り憑かれている日本教職員ユニオン思想研究会連絡協議会会長の清野和彦は「尊敬する金正日総書記誕生六〇周年を心から御祝い申し上げます」と書き出した。極めて残念なのは日本の状況です。とりわけいま重要にな

っているのが教科書問題です。新しい歴史教科書をつくる会の歴史及び公民教科書には、反共的のな表記や記述がなされており大きな問題を含んでいます。こうした危険な動きは決して許してはなりませんし、負けてはいけなと思っています。今年

は金正日総書記誕生六〇周年を祝賀する日教組代表団を実現していければと思っています」と述べている。榎枝にしても清野にしてもこんな奴等が、未だに日教組を牛耳っているのが実状で、日教組は金正日を敬愛する「反日・親北朝鮮団体」だということである。

警察官の子を理由にした体罰

初代内閣安全保障室長の佐々淳行氏が警視庁警備課長だった時、佐々氏の息子が世田谷区立小学校で日教組闘士の女性教師から警察官の子というだけの理由で、長時間居残り、立たせられるという体罰を受けた事件があった。この教師は授業中「お父さんが警官や自衛官の子は立ちなさい」と命じた。数人がオドオドしながら立つと、クラス全員に「この子たちのお父さんは、ベトナムで戦争し、学生を警棒で殴っている悪い人たちです」と言い「立っていないなさい」と理不尽にも夕方まで立たせていたという。

帰宅した息子からこれを聞き



佐々淳行初代内閣安全保障室長

激怒した佐々氏は校長に抗議の電話をかけた。ところが校長は「相手は日教組、争わない方がいい」と応えた。佐々氏が「公立の学校で親の職業による理不尽な差別教育と、罪のない子供を『立たせる』という体罰について教育委員会に提訴する」と迫ると、校長は当の教師を佐々氏宅に向わせた。その時、この女は日教組を盾に「組織をあげて警察の権力的弾圧と闘う」と息巻いたという。

佐々氏が「私は一人の父兄として貴方をクビにするまで闘う」と言うとバカ女教師は突然床に土下座して「クビになると食べていけない。みんな日教組の指示によるもの」と泣いて訴え許しを乞うたそうだ。

また、京都では警察官の子は勉強ができて成績は「オール3」だったという信じられない事実もある。

職業に貴賤はない、人間は皆平等だと教えなければならぬ教育者がこのままだ。日教組が教育現場を意の俣に牛耳るようになってから六十年以上が経過

している。その間、墮落した教員による反日教育と、自虐史観を植え付けられた少年少女は、日本人としての矜持を失い、他人への思いやりも喪失した。その結果、学校は荒れて、同様に日教組の教育を受けた「モンズーペアレント」なるバカ親が現れることとなった。日本の教育現場がこのようになった原因は当然ながら日教組にある。

日教組の解体こそ真の教育改革

日教組の教員が卒業式で、国旗を掲げ国歌斉唱を実施しようとした小学校の校長に数人で暴行を加えた事件があった。これを見て子供たちは「一人を大勢で苛めてもいいんだ」と思う。労働者の権利だと言つて授業そつちのけで集会に行く日教組の教員たち。それを見て子供たちは「学校はさぼっていいんだ」と考える。

日教組の職員は「日本はアジアの人々を苦しめた悪い国だ。お爺ちゃんもお婆ちゃんも悪人だった」と徹底的に自虐史観を植え付ける。これを聞いた子供たちは、自分も悪人のDNAを受け継いでいるのかと、国家や家族を愛せなくなる。自分や友人を大切にしているのか分らなくなり、享乐的で破滅的な生き方しかできなくなる。日教組は、そんな日本人を大量生産してきたのだ。日教組の解体こそ真の教育改革である。 編集人